

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900785	事業の開始年月日	平成22年4月1日	
		指定年月日	平成20年4月1日	
法人名	社会福祉法人湘南福祉協会			
事業所名	グループホームなごみ			
所在地	(239-0807) 神奈川県横須賀市根岸町4-10-10			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年6月22日	評価結果 市町村受理日	平成22年8月23日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>11年間、お世話になった久里浜の地より、4月1日から北久里浜に新築移転しました。 新しい事業所は北久里浜の駅から15分、近くに商店街、公園、学校があり静かで、環境の良い場所にあり、日課としている散歩にも適した所です。建物も広くて明るく、日当たりや風通しも良く伸び伸びとした生活が送れます。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年7月21日	評価機関 評価決定日	平成22年8月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点> ・同法人の協力医療機関による月2回の訪問診療、看護師による週2回の健康管理に加え、24時間の医療連携体制があるなど医療管理体制が充実している。 ・新築移転の計画段階から、管理者が近隣住民に声掛けして、利用者が地域の一員として暮らせる環境を整え、災害発生時の協力を依頼している。職員の半数は普通救急救命の訓練を受けている。また、7月の町内会主催の防災訓練にも利用者と共に参加しており、事業所の安全意識が高い。</p> <p><事業所の工夫している点> ・職員による多くの改善提案があり実施されている。 事例：転倒防止のためコンソートの位置を床から天井に変更した。日課の朝の散歩で公園のゴミ拾いを提唱し実行している。職員の腰痛防止対策としてギャジベッド2台を導入した。転倒を防止するため、ベッドを床上マットに変更した利用者がいる。歩行を促し、かつ、転倒を防止するため、階段・トイレのドアの脇に手すりを増設した。投薬の袋に朝・昼・夕・就寝前の4種類の識別カラーを施し誤投薬を防止している。 ・排泄パターンを参考にしてトイレ誘導をし、昼間はおむつから布パンツに改善した事例がある。ポータブルトイレを使わず通常トイレまで歩行するように支援して、歩行機能を低下させないように努めている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

グループホーム なごみ

事業所名	グループホーム なごみ
ユニット名	-

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月にこの地にお世話になり日が浅いが、町内会に加入して普通の暮らしができるように努めている	・「一人ひとりの意思の尊重、助け合い、楽しい団らん、安らぎと喜びを実感できる生活」を理念のキーワードとし、職員は常に利用者、家族の笑顔を念頭においてサービスを行い、毎月の職員会議で確認し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まずは、ご近所の方と日常の挨拶回覧板等でコミュニケーションを図り、散歩の時は公園のゴミ拾いをして地域の一員であることを認識している	・本年4月、新築移転の前段階から管理者が近隣住民へ戸別に声をかけ、利用者が地域の一員として暮らす環境を整えている。 ・町内会に加入して地域行事に積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とは、どんな病気か、どの様に生活が出来るのか、外部の方に見学などで理解して頂けるよう努めている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	移転前は実施していたが、こちらでは、日程調整中です。	・町内会長、行政(横須賀市、地域包括支援センター)と準備を進めており、民生委員が決り次第、運営推進会議を開催する予定である。(旧地では地区会議2回/年、事業所主催運営推進会議4回/年を開催していた)	運営推進会議のメンバーが決まり次第、会議を開催し、事業所に対する理解を深め、意見交換をしてサービスの向上に結びつけられることを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出向いての相談や、メールでの質問・相談をしています。	・横須賀市役所に出向き、また、電話やEメールにより、手続き・質問・状況報告などに関して常時連絡をされており、担当者との協力関係を築いている。		

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、1階に誰も居ない時には、安全のため施錠している。車椅子で立ち上がり、安全が保てない方には、歩行器に変えたり拘束しないケアに取り組んでいる	・1階に職員がいないときのみ、安全のため玄関を施錠している。居室のドアに鍵はない。2階(リビング)と1階(居室)の間の往来は自由である。 ・職員は拘束のないケアのあり方について職員会議で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える虐待だけでなく、言葉の虐待も有ること、職員会議などで確認している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会・講習会等に参加し学んでいる。個々に必要となれば活用できるよう更に学びたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取り、事業所で出来ること、出来ない事等を明確に説明し理解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者にどんな事でも話せる信頼関係作りを心がけ、施設内に、ご意見箱設置、第三者機関にも相談出来ることを説明している	・職員は、家族の意見や要望などを来訪時に聞くことに努めている。現在地への移転の際は、「なごみ」の雰囲気継続して欲しいとの家族の意見が強く、職員全員が勤務を継続するなどの便宜を図った。 ・家族の意見・要望を運営の参考にするためご意見箱を置いている。	

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティング、月1回の職員会議、連絡ノートを活用で意見・提案を反映、周知している	・毎月の職員会議で意見を出している。転倒防止のためにコンセント位置を変更、散歩時のゴミ拾い、職員腰痛防止のためにギャッジベッド採用、手すりの増設(階段、トイレドア脇)などを提案し実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やや重度の受け入れをしたので、余裕が無いが各自の研修・資格取得に向上心を持って臨んでいる。早番・遅番を設定し、夜勤者の負担軽減に取り組み、休暇も気兼ねなく取れるよう努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの力量を把握し、研修には、誰でも参加できるように、情報提供し、ケアの向上目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県・市のグループホーム協議会の施設交流・研修会等で意見交換・情報交換・施設見学をしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活歴を尊重し、安心・安全に暮らしていける場となるように、気軽に話せる雰囲気、じっくり聴く機会を作り努めている		

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思われること、困っていることを良く聴き、いつでも時間を取り、受け止めることに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何を必要とされているかを見極め、良く話を聴き、他のサービスが利用できるか否かを検討支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の知恵・知識を教えて頂き、年長者として尊敬し、支え合って共に楽しむ生活が出来るよう支援している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡・連携を取り散歩に参加していただいたり、お茶や昼食を一緒に過ごし、共に支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気楽に訪問出来るような接し方を心がけ、ご案内している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の友人が事業所を訪問している。 ・家族を始め、友人と小旅行に出かけるなど、馴染みの人との関係を絶やさないようにしている。 	

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯ものを一緒にたたんだり、ソファに座る時、食卓に着く時に孤立しないよう職員が気配りをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されて半年くらいは、ご家族に状況を聞いたり、本人から手紙が届いたりと落ち着かれる事を確認している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時における面談や、その後の生活の中での面談で、本人の意向・希望を把握し、ご自分の気持ち、意向を出されない方には、普段の会話から察している	・入居時にアセスメントを行い、本人、家族の思いや意向を把握し、入居後は家族の訪問、日常生活を通して本人の思いや意向を把握するように努めている。 ・意思疎通が困難な利用者には、言葉掛けを通じて思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時における家族面談で、今までの暮らしぶり、環境等聞き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを知り、会話や行動を通して本人が満足のいく生活をされているか否か、現状の把握に努めている		

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意向、本人の願っていることを達成可能に近づくよう、面会の時や受診時に、意見、要望など聞き利用者本位の介護計画が出来るよう職員全員参加で計画を立てている	・毎月ケアカンファレンスを行っている。医師の指示、家族の意見を事前に把握して、6か月毎に総見直しを行い、家族の承認印を得ている。途中の変更は家族に電話連絡をして了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を取り、職員間の連絡ノートの活用やミーティング、職員会議で情報を共有し実践見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の医療機関から、定期的に訪問診療を受けている。又重度化した場合は同一法人の施設を紹介したりするなど、法人内の事業所と連携を取りながら支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移転後日が浅いのでこれから検討		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診希望の利用者は継続して受診している。かかりつけ医、協力医療機関、いずれの受診においても、日々のバイタル表や様子をまとめた記録持参して、医師との連携をはかっている	・かかりつけ医を継続している利用者が数名いる。(皮膚科、泌尿器科、内科、精神科等。) ・同法人の湘南病院内科医による訪問診療が月2回ある。歯科医からは、月1回の定期診療(要治療者は毎週)を受けることができる。	

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を取得する準備中です		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の協力医療機関に相談してお互い情報提供している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算を取得する準備中です。当面看取りはしませんが、重度化した場合は協力医療機関に入院していただきます	・医療連携体制加算を取得し、週2回訪問の契約看護師と、24時間看護体制を契約している。 ・利用者が重度化した場合は、医師、看護師、家族と連携を密にし、入院等の適切な対応をとる方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命などの研修を受け、施設では急変・救急のマニュアルを作成しているが、まだ訓練までは実施していないのでこれから検討する		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月に町内会の合同災害訓練に参加の予定	・消防署協力のもと、昨年5月に夜間訓練(近隣住民参加)を行なった。6月と今年の7月に、AEDの取り扱いと消火訓練を行い、可能な利用者が参加した。普段から近隣の住民との交流を深め、いざという時に備えている。備蓄は3日分ある。	

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声掛けやトイレ誘導など、尊厳やプライバシーに配慮するよう徹底している。個人情報についても会議等で取り上げ対応している	・個人の尊厳、プライバシーについては、常に職員会議で日頃の対応で問題がないかを確認し合っている。 ・利用者の性格、生活歴、その時の気分や状況に応じて言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、思いや希望が話せ、言葉に出せるような雰囲気作りを心かけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れは決まっているが、ひとり一人のペースに合わせて個人の自由時間を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重ね着をしていまう方にはプライドを傷つけないような言葉でアドバイスをしたり、ボタン付けや繕い物等で支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の天候や利用者さんのリクエストで献立を決めたり、出前を取ったり、気分を替え楽しみ、準備や片づけ、洗い物などしている	・利用者は、ゴマを擦ったりインゲンのすじを取るなど、食事の準備を職員と一緒にしている。 ・職員は食事を利用者と一緒に食べ、おしゃべりしながらさりげなく介助を行っている。	

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、過不足が無いかチェックし低下している時には訪問医に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食後必ず自立の方には声掛け、見守り、介助の方には必要に応じた支援をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行って、安易にポータブルトイレを使用せず、自立支援している	・排泄リズムを把握して声掛けや誘導にて、失敗する回数を少なくしている。夜間にオムツを使用している利用者も、日中はリハビリパンツや布パンツにパットで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の工夫、毎日の散歩と運動、水分摂取量確認、排泄の確認など、こまめに対応し、医療的なことは、訪問医に相談している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回と決めているが、夏季や散歩から帰った時、失禁などには、その都度対応している	・入浴は日曜日以外の午後、一日おきに週3回入ることになっている。午後の時間帯にしているが、入浴順はその日の利用者の希望や様子で決めている。	

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の習慣に合わせ、昼寝をする方、ソファでテレビを観る方、寝具は清潔を保ち昼も夜も気持ちよく休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員誰もが、薬の用法・用量が分かるよう受診ノートに処方された薬を記録し、目を通すように徹底している。見守り・声掛け・確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域のボランティアによる、押し花、紙芝居、花の水やり、草取り庭にトマトやナスなど植え成長を楽しみ、実の収穫が出来るよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課としている散歩も、冷たい飲み物やお菓子など持参し、公園で楽しみご家族にも協力を仰いで参加していただいている	・利用者の状況(車椅子有無など)に応じて3班に分け毎日10時半、夏季は9時半から近くの公園に散歩に出かけている。 ・家族の協力を得て、横須賀市の菖蒲園に出かけた。秋にはみかん狩りに行く予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段あまり、お金の所持は無いが遠足の時は、それぞれが好きな物を自由にお金で買えるよう職員と行動している		

グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	移転前は23日をふみの日として家族、友人に便りを出していたが、近々復活したい。電話は掛けたいと申し出があれば対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や飾り物、居間には自分たちが協力して作成した作品が飾られ、適度な広さが保たれ、明るく風通し良い空間となっている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室は、日当たりが良く明るい。壁には利用者が皆で作った朝顔の貼り絵が飾られている。 ・廊下や階段の両側に歩行しやすいように手すりを設置し、また、トイレのドアの横に手すりを付けて利用者が自分で行けるように配慮している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファ2台と一人掛けのリクライニング椅子が2台あり、好きな場所に気の合う方の隣へと自由に移動されている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たり、風通し良く、清潔を心がけ、好みの物を持ち込み安心して過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、使い慣れたタンスや家族の写真を持ち込み、自分で作った作品を飾るなど、利用者ごとに居心地の良く過ごせるよう工夫している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段の手すりを左右に付けたり、車椅子の方が歩行訓練し易いように廊下の手すりを増やしたりして安全、自立を支援している		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム なごみ

作成日 平成22年8月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	4月移転開所後7月21日の外部評価実施日までに、参加メンバーが決まらず開催できずにいた。	8月28日、開催の予定。	長寿社会課に相談の上、直接町内会長・民生委員、地域包括支援センターの職員に参加のお願いをした。	2週間。
2	29	移転後の日数が浅いため、地域との協力体制ができていない。	災害時に、地域の協力が得られるようにする。	運営推進会議を通し協力体制が得られるよう、相談しながら取り組む。	1年間。
3					
4					
5					